








僕は



死ぬのだろう




こころもあっけなく

唐突に



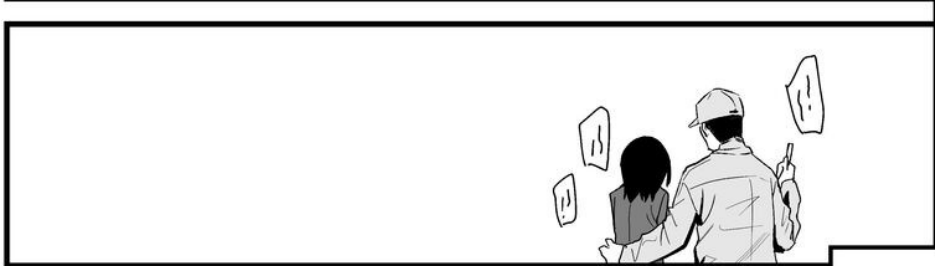
そうだ  
あの子は……

あの子は  
助かったのだろうか



いたあ……  
うわめっちゃ  
擦りむいてる

無事みたいで  
よかつ……



就活して  
社会復帰  
なんて...



考えるんじゃない  
なかった...

叶うならば次は  
こんなクソみたいな  
世界より...

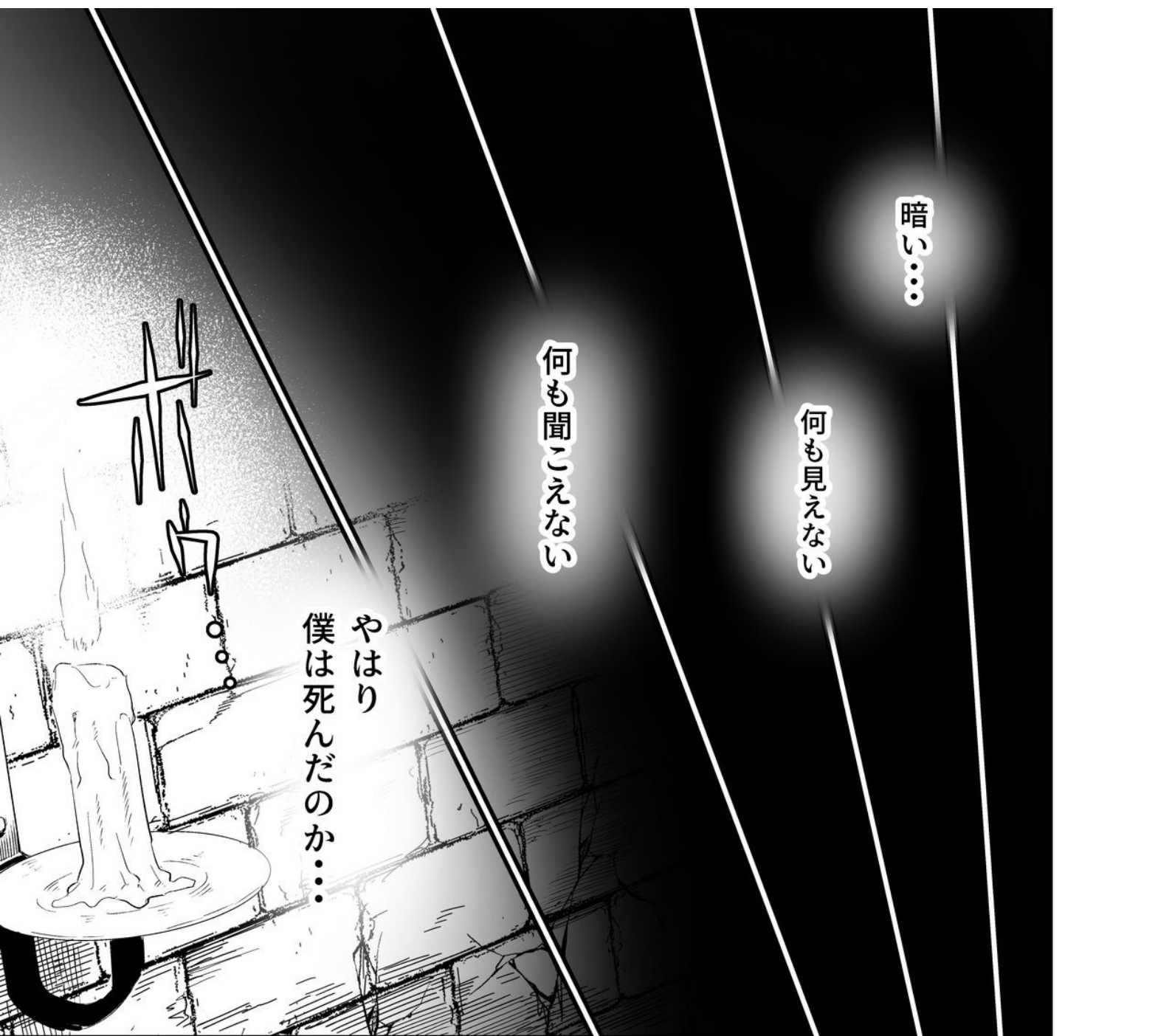
もっとマシな...

暗い……

何も見えない

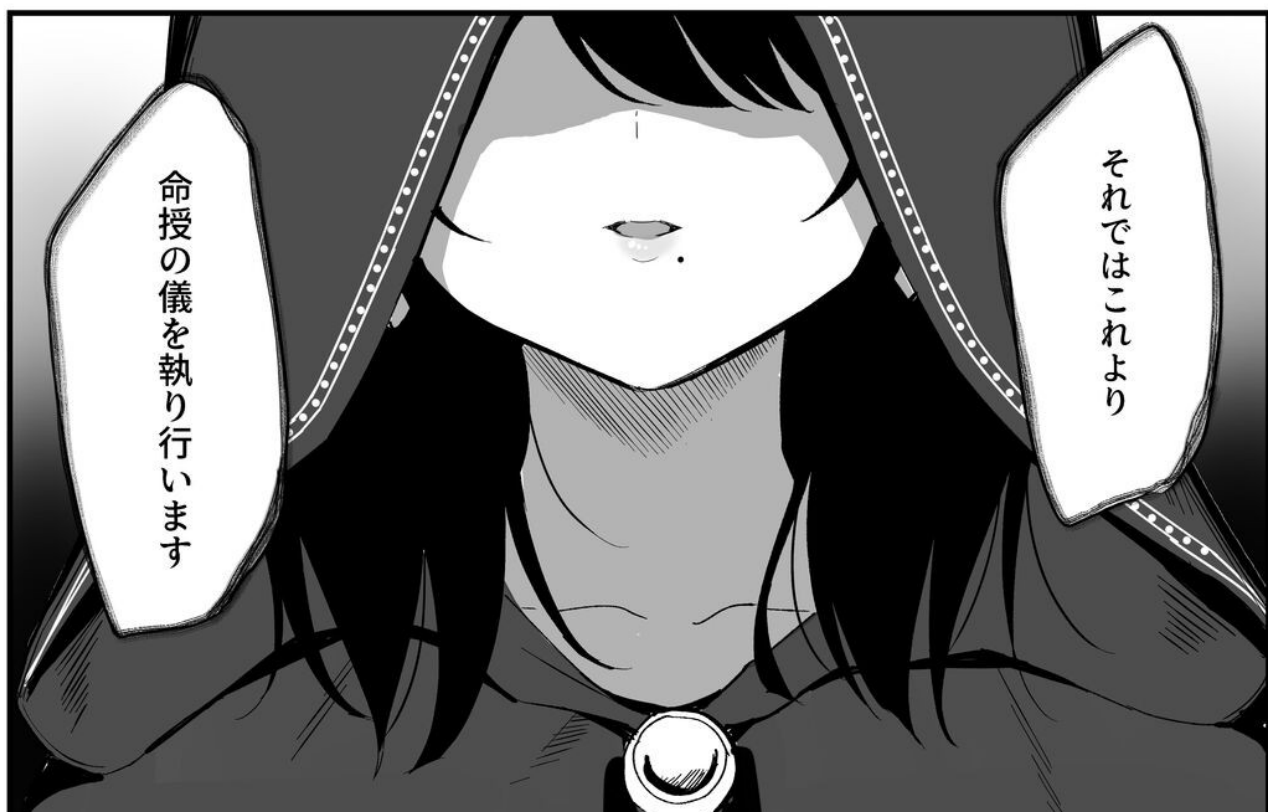
何も聞こえない

やはり  
僕は死んだのか……



それではこれより

命授の儀を執り行います









ずるい！  
二人で一緒に  
って約束でしょ？

ミヤは  
大丈夫よ！  
さつき玩具で  
一回やっちゃったから

「もう  
あんな痛いのは  
ごめんだ！」

まさかまた  
僕は死ぬのか！？

あれ拷問器具か……？



マヤ怖いの？

だっ  
だっ  
だっていつもは  
自分でしかないから

それに  
こんなに大きな体……  
ミヤも  
そうでしょ？

一体何を  
始める気なんだ……



昨日教えた通りに  
できますか？

マヤ

ミヤ



はいお母様



ヒク  
ヒク



えっと



さすっ

カッチコチの  
棒にするには

ここを舐めれば  
いいんだよね？

おー

いっ  
いっ

なっ...なにを  
しているんだ！

ふっ  
ふっ  
ちっ  
ちっ  
ちっ



身体が大きくて  
クマさんみたい

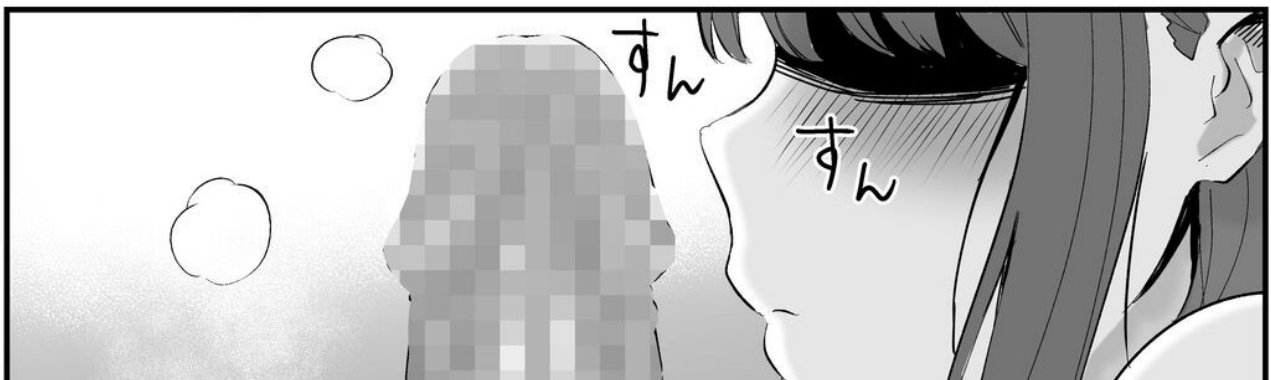
手にマメも  
ないし

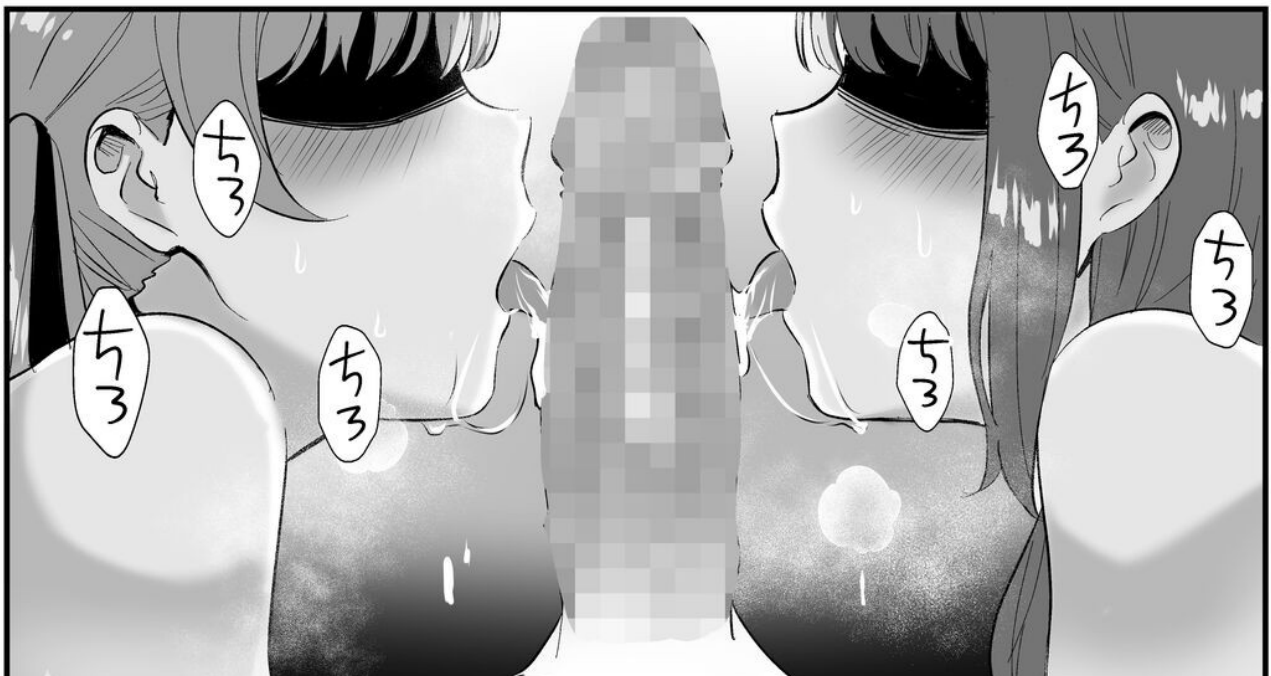
日焼けも  
してない

やっぱりどこぞの  
貴族さまかしら

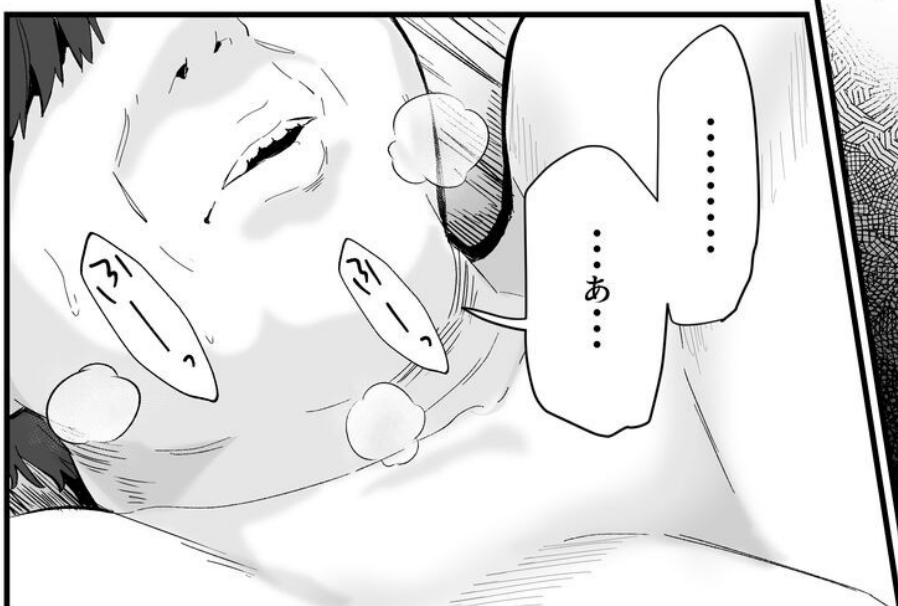
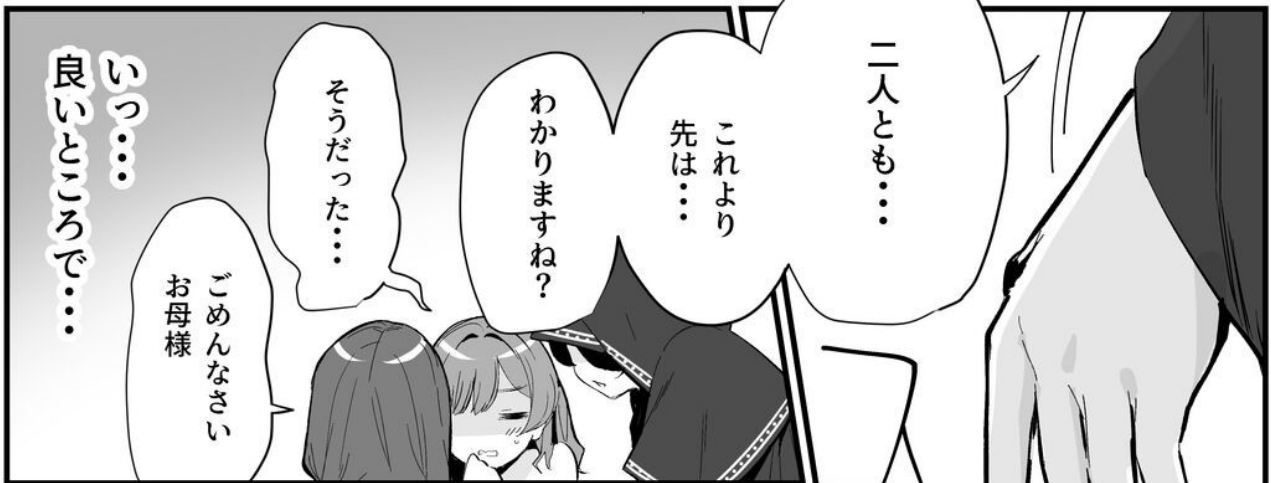
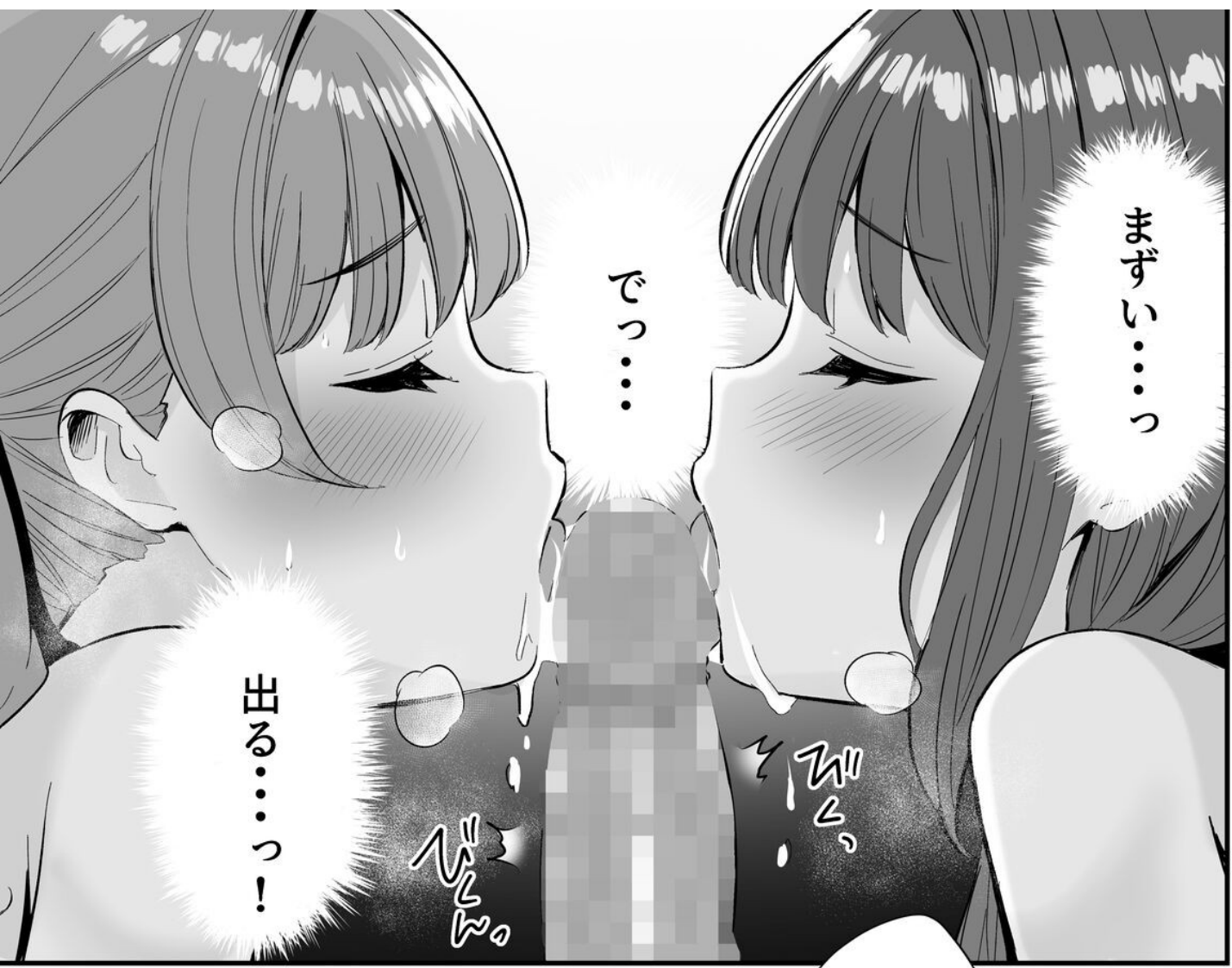
ちっ  
ちっ  
ちっ











あんたら  
なんなんだ！

僕はこれから  
なにをさせられるんだ！

トラックに轢かれた  
と思ったら  
手錠にフェラ！

これが夢じゃ  
なかったら  
なんだ！

ごっっ…  
ごめんなさい！

いきなり  
なに!?

陣が少し緩んで  
しまったようです

問題ありません

つ…!!  
また  
喋れなくつ…!!

何か怒ってたけど  
知らない言葉  
だったわ  
マヤ知ってる？

マヤも知らない





これから  
あなたには...

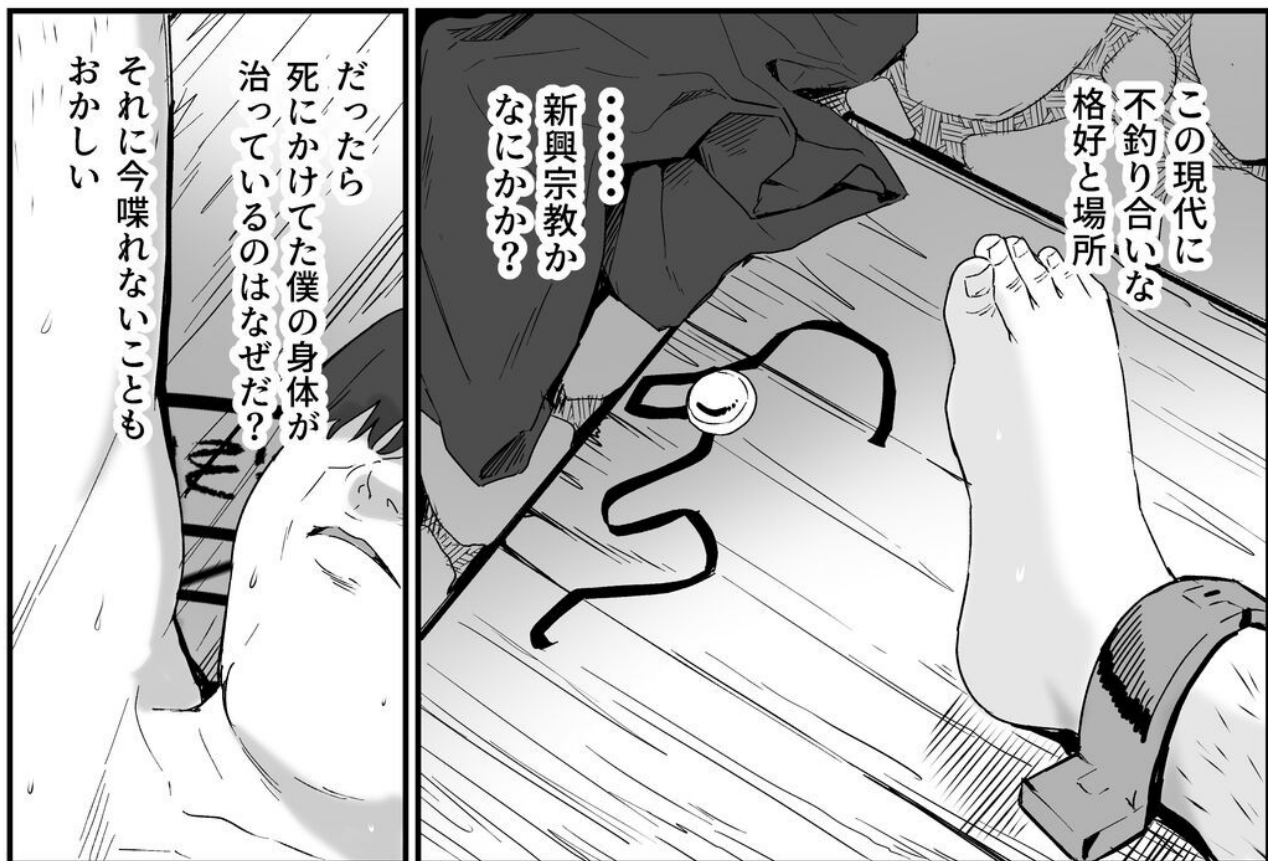
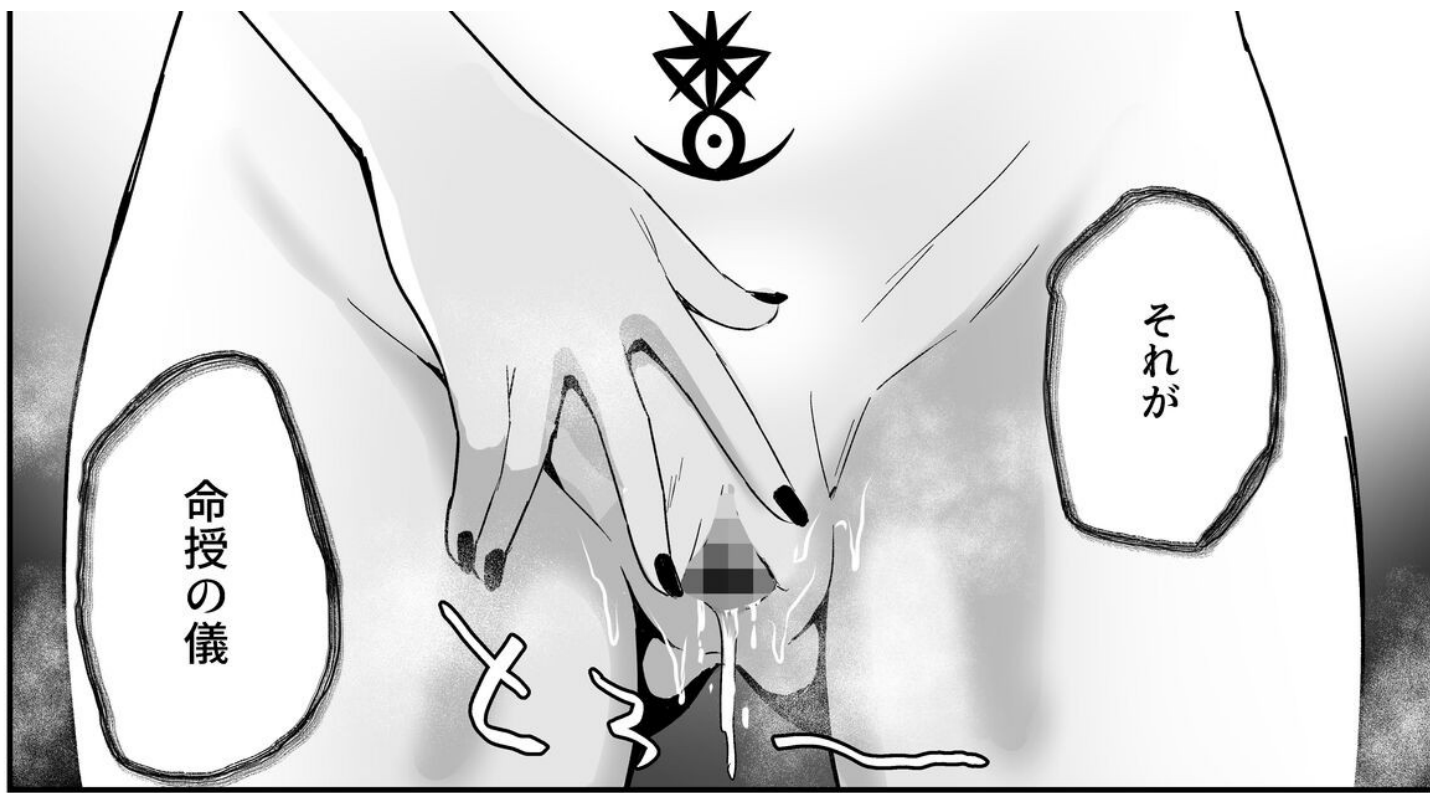


通じないとは思いますが  
一応  
お答えしておきますよう



我々とまぐわい  
産んでいただきます

魔女の子を





この子達は  
今年適齢期を迎え  
初めて異性と  
まぐわうのです



やっぱり  
これは夢か？  
でもさっきの快感が  
偽物だとは……



はい  
お母様



もじ  
もじ



マヤ

こんな大きいのが  
私達の中に...

大丈夫かな？

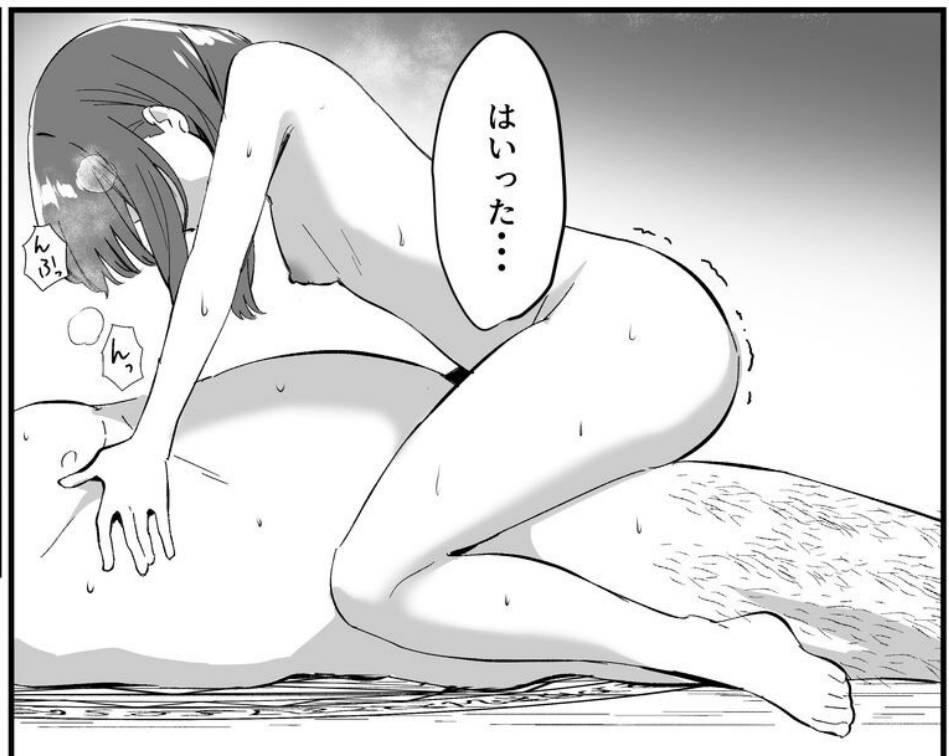
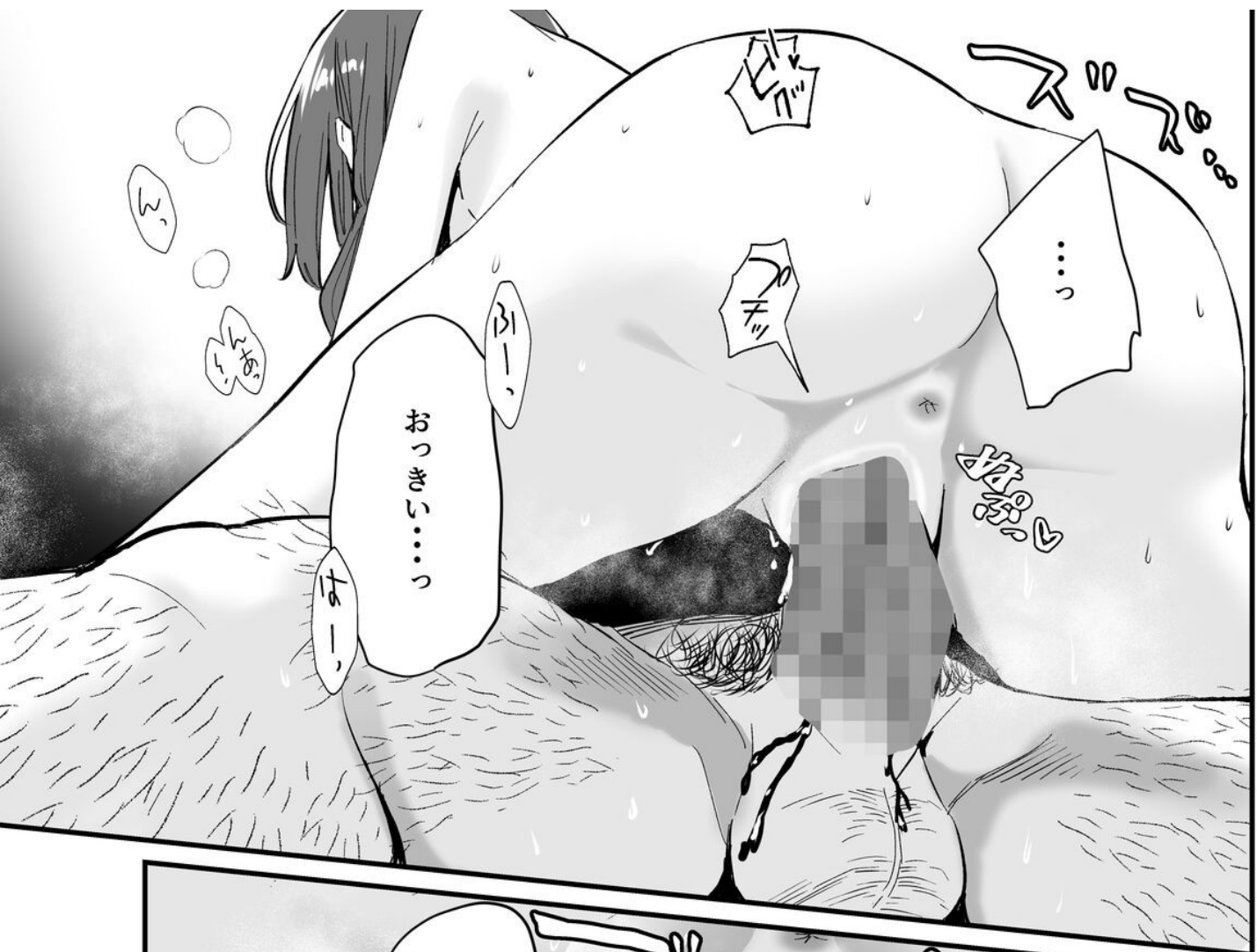
あなたに主導権は  
ありません

これまでのどの男性も  
己の性欲には抗うことは  
できませんでした

えも  
コレセ？

742















一緒に！

カチュッ

うんっ！

カチュッ

ミヤと一緒に！

カチュッ

じゃあ一緒にいこっ……！

あーん

カチュッ

カチュッ

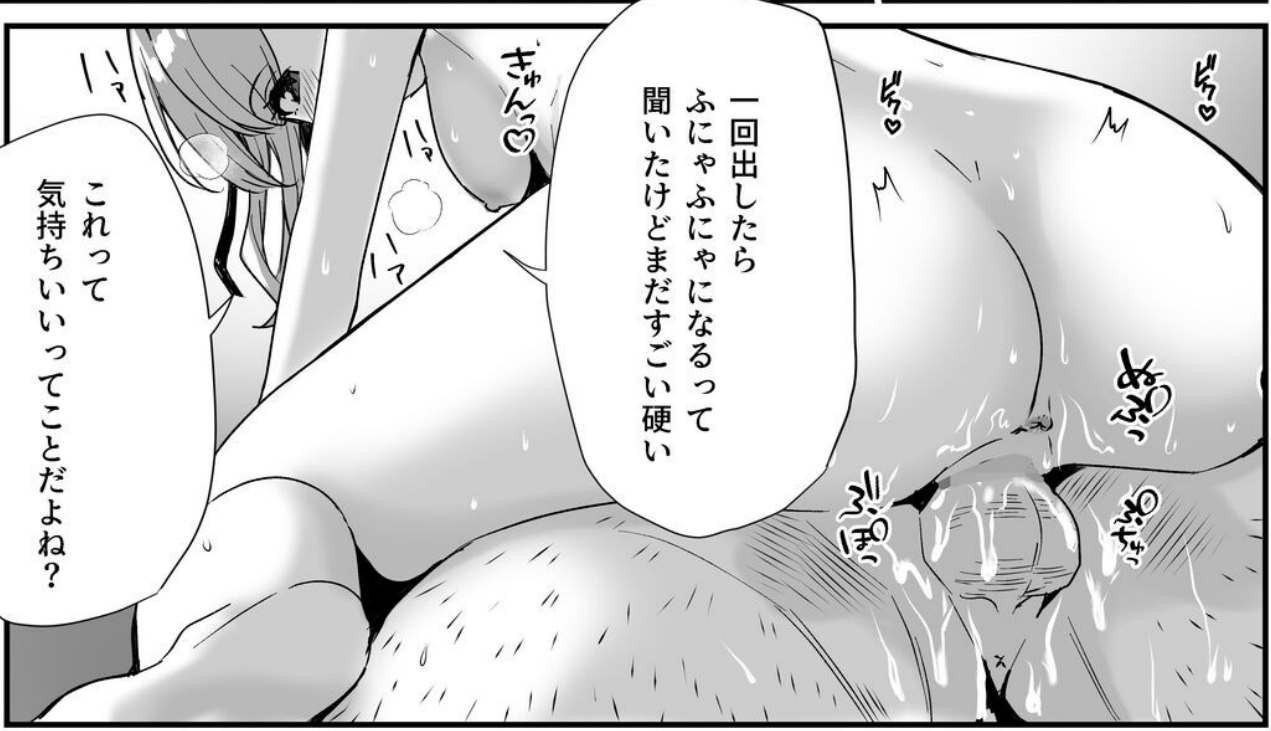
カチュッ

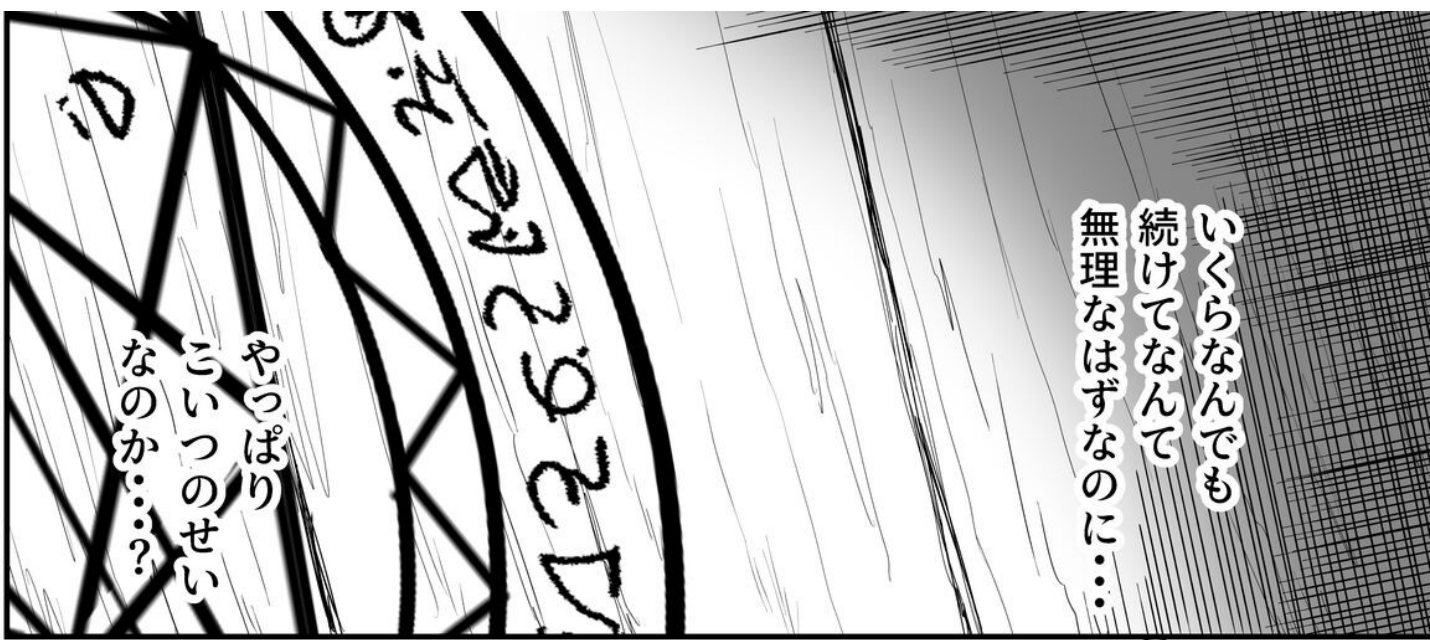
カチュッ

カチュッ









いくらなんでも  
続けてなんて  
無理なはずなのに...

やっぱり  
こいつのせい  
なのか...?



マヤ

じゃあもっと  
気持ちよくしてあげて



こんな風に

こう??

はー

はー

はー

はー

はー

はー

はー

はー

はー

はー







なにが起きている！

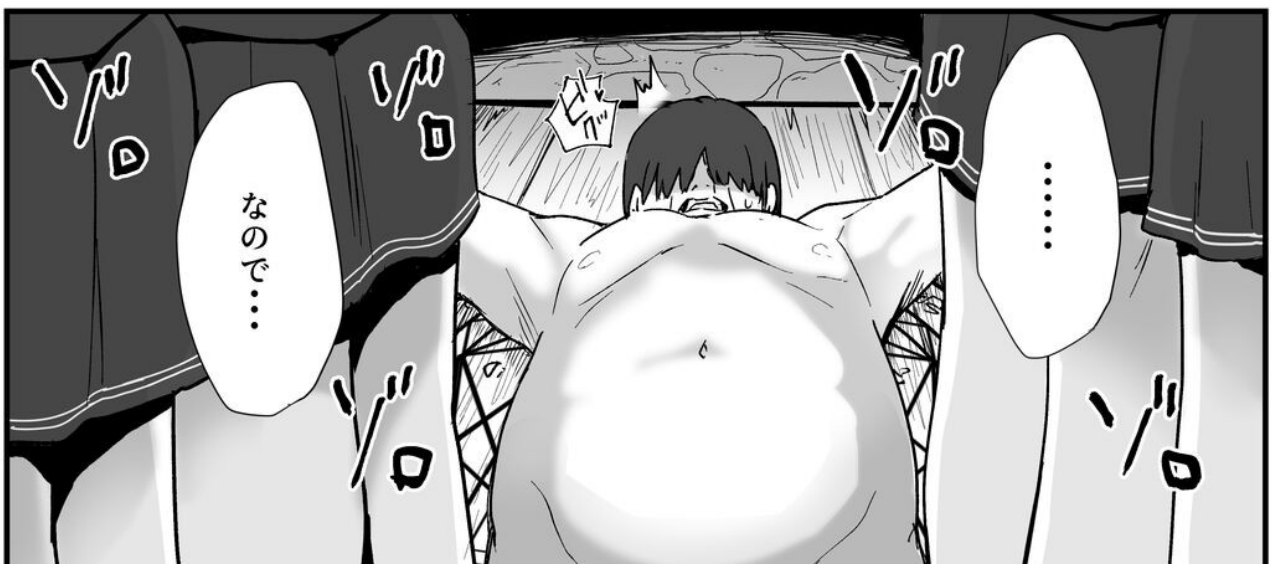
ギニー  
ギニー

僕のチンコが  
勝手に……！

これが魔女の  
使う魔術の力

その一端に  
すぎませんが

これであなたは  
もう精魂尽き果てるまで  
勃ち続けたままです



なので……

……

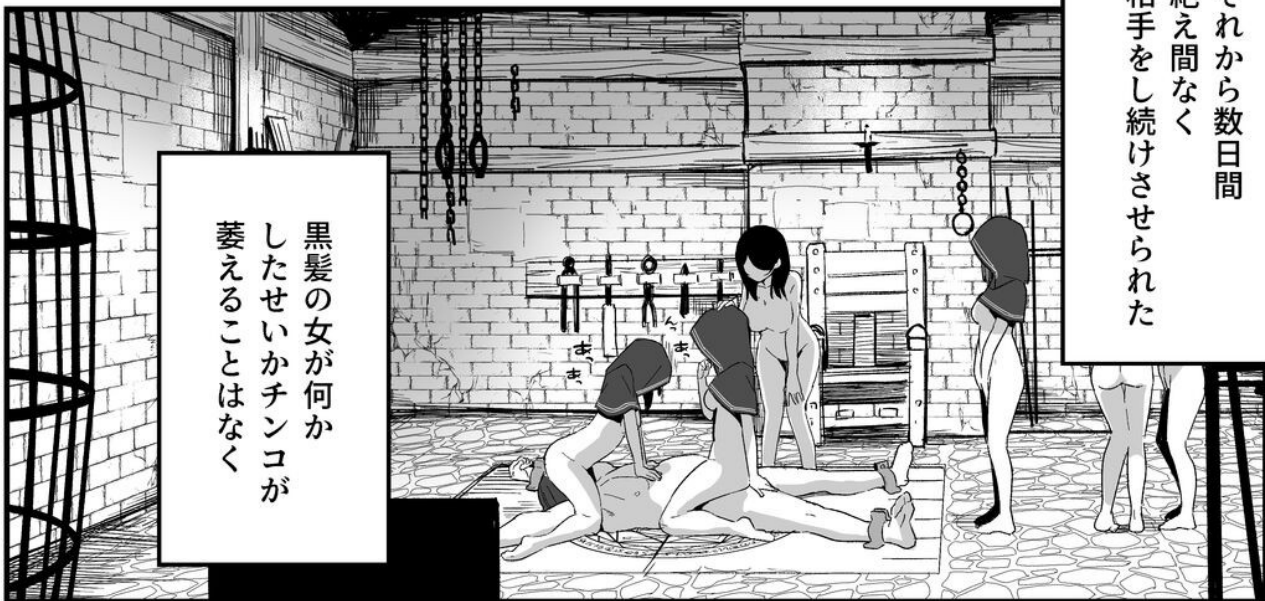


我々に

あなたの子種を

死ぬまで  
出してください

それから数日間  
絶え間なく  
相手をし続けさせられた



黒髪の女が何か  
したせいかチンコが  
萎えることはなく

気絶しかけても  
よくわからない液体を  
無理やり口に流し込まれた



肉体は痩せ細り  
精神的には当に限界がきていて  
焦点が定まらなかった



これで私の言葉が  
理解できるはずです

ああ私にはあなたの言葉を  
理解できていましたので  
ご安心を

この村に男性がない  
理由を教えてください

大昔  
我が一族は辺境の地へ  
追放されたのです

そしてこの身に  
末代まで続く  
呪いを受けた

産んだ子供には  
この刻印が現れ  
女しか産めない身体に  
なるのです

ゆえに我々は数年に  
一度王都から男性を二人  
連れ去り子を授かるのです

しかしあなたが現れた…

あなたは…



私が呼びました



召喚されたのです

私の魔術によって

別の世界から



別の…世界…

つまりここは  
異世界…



一番の問題であった  
子種の供給……

子種が不足しないように……  
いつでも用意できるように……



ついに完成したのです



絶やすわけには  
いかないのです

血を



転移術

時代に合わない  
衣服

この世界に  
存在しない言語

私は  
失敗していなかった

あなたを見て  
確信した

え……

我々だけのいづれ  
王国を超えるほどの  
楽園を築くまでの血を！

つまりっ！

あなたたち男は  
我々の家畜なのです！

使い捨ての  
玩具なのです！

我々をないがしろにしてきた  
王家の人間共を根絶やしに  
するまではっ！

産ませる道具  
なのです！



私は私が産んだ子に  
魂を移し何代も  
生きながらえてきたのです

母と呼ばれる  
理由を

私がこの村で

知っていますか？

そしてまた

この身に  
我が身を宿す...

我が一族の  
秘密です

他言無用で  
お願いします



ああもうすぐ  
息を引き取るのでしたね

魔術の研究に  
時間を取られ

年齢が少しばかり  
ズレましたが

私の  
15度目の純血は

どうでした？

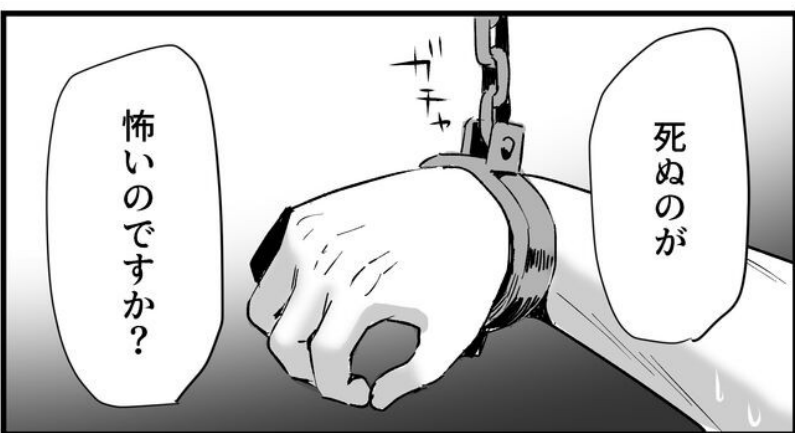




数日しか見てこなかったが  
俺にはわかる

この女は狂っている

……でも





頑張って生きてって  
神様は見てくれやしない

でも…

魔女はいてくれた

あなたは  
命の恩人だ

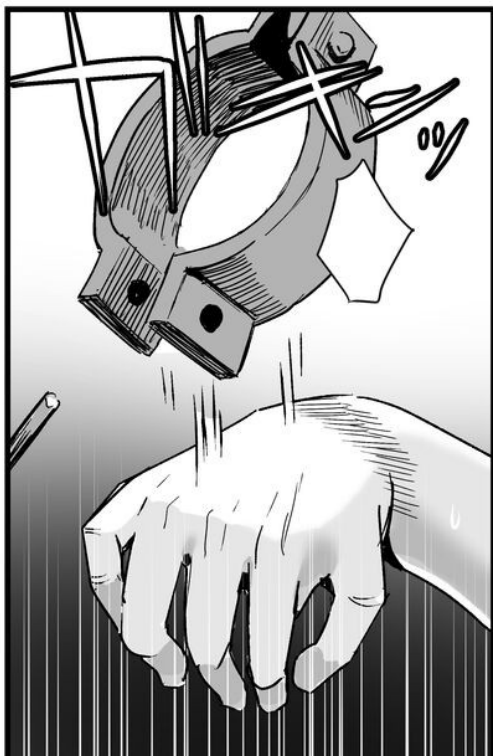


だから  
ありがとう…



変わったお人

?





ならばせめて  
最期に……

好きにすることを  
許します







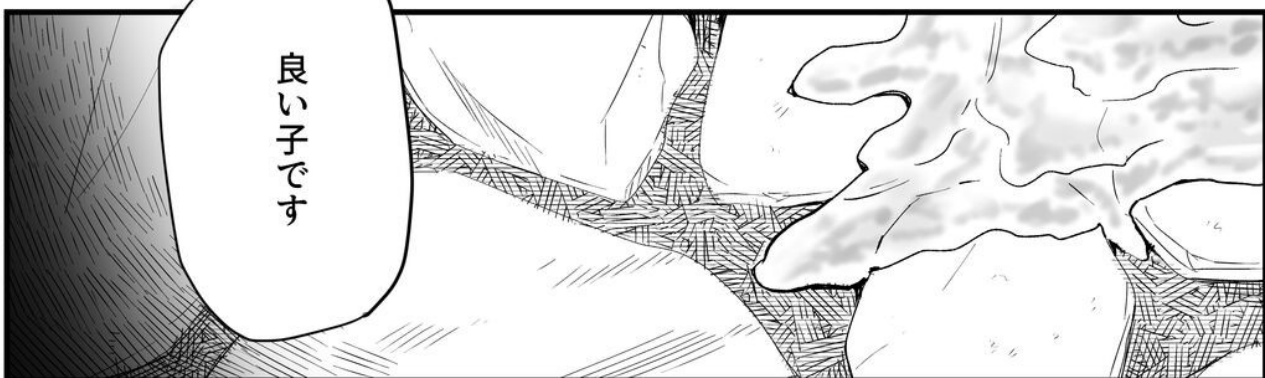








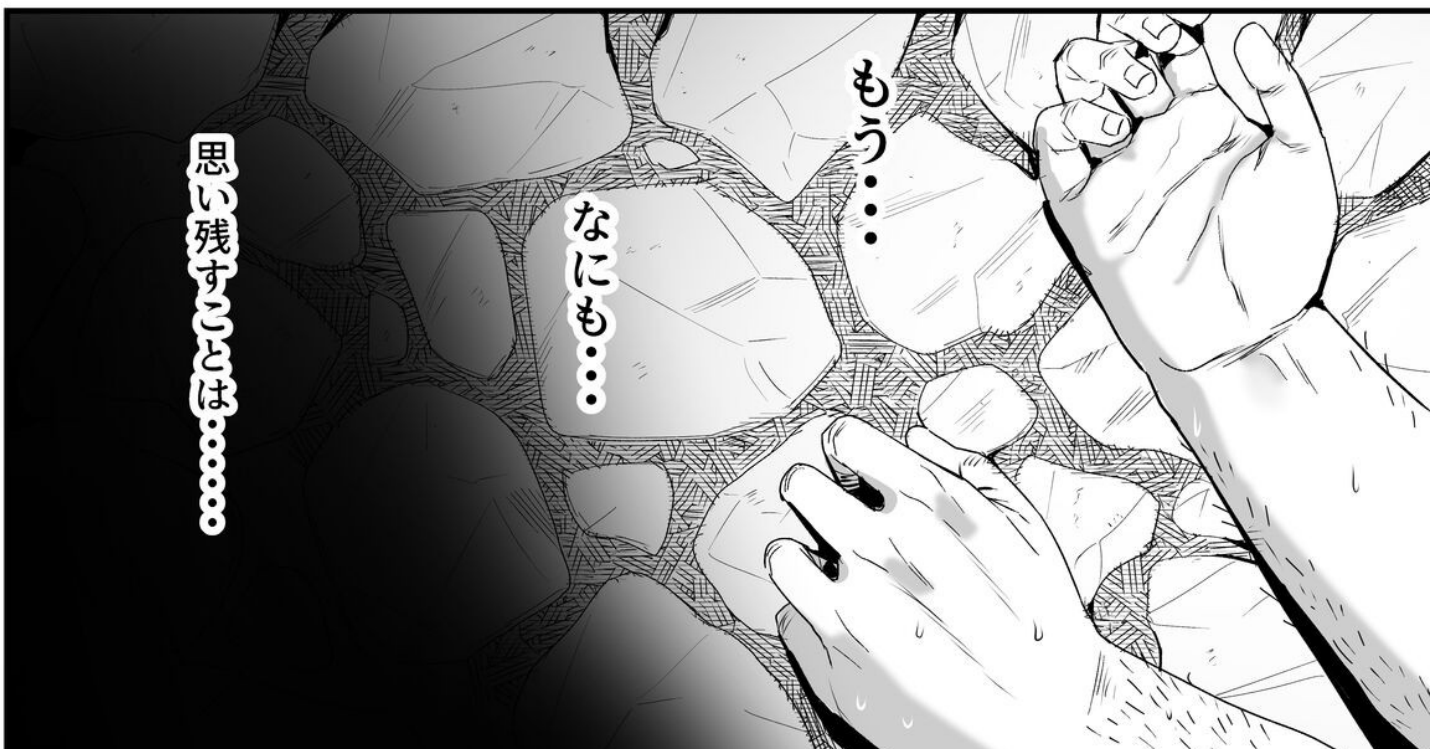
良い子です

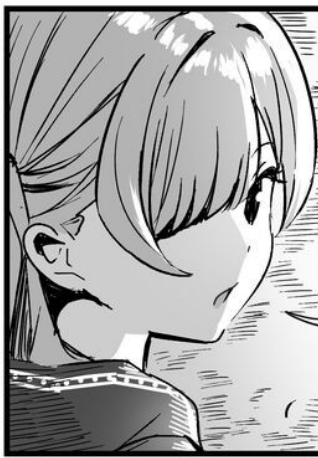
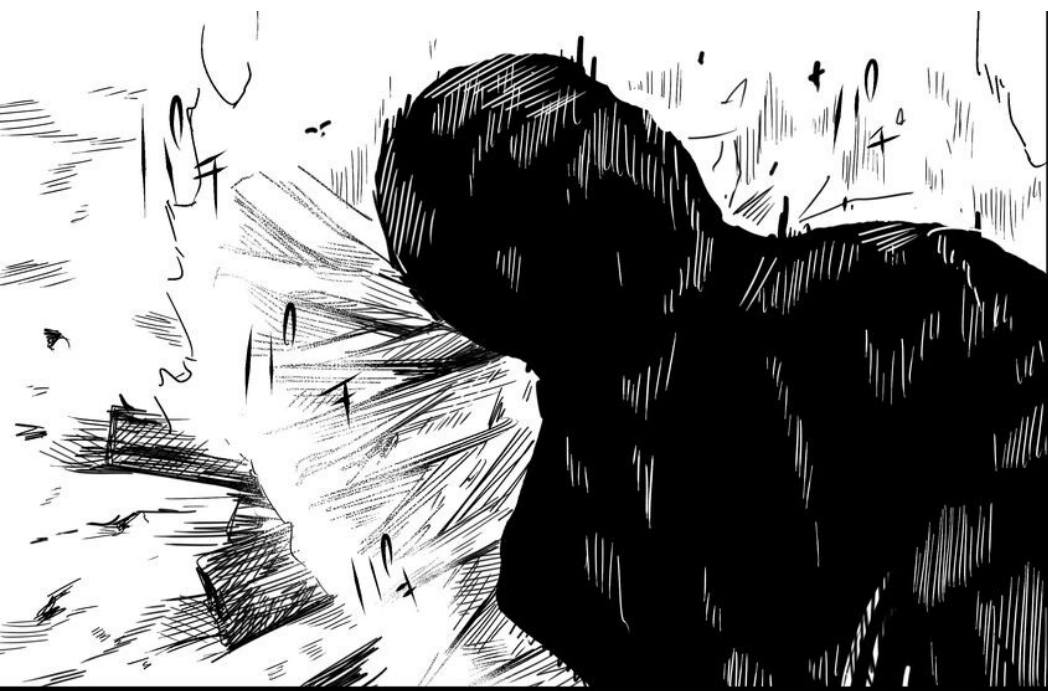


も...も...

なにも...

思い残すことは.....





お母様

いつもは  
犬のエサに  
するの……

どうして今回は  
火葬にしたの？

お母様

10日も  
持たなかったね

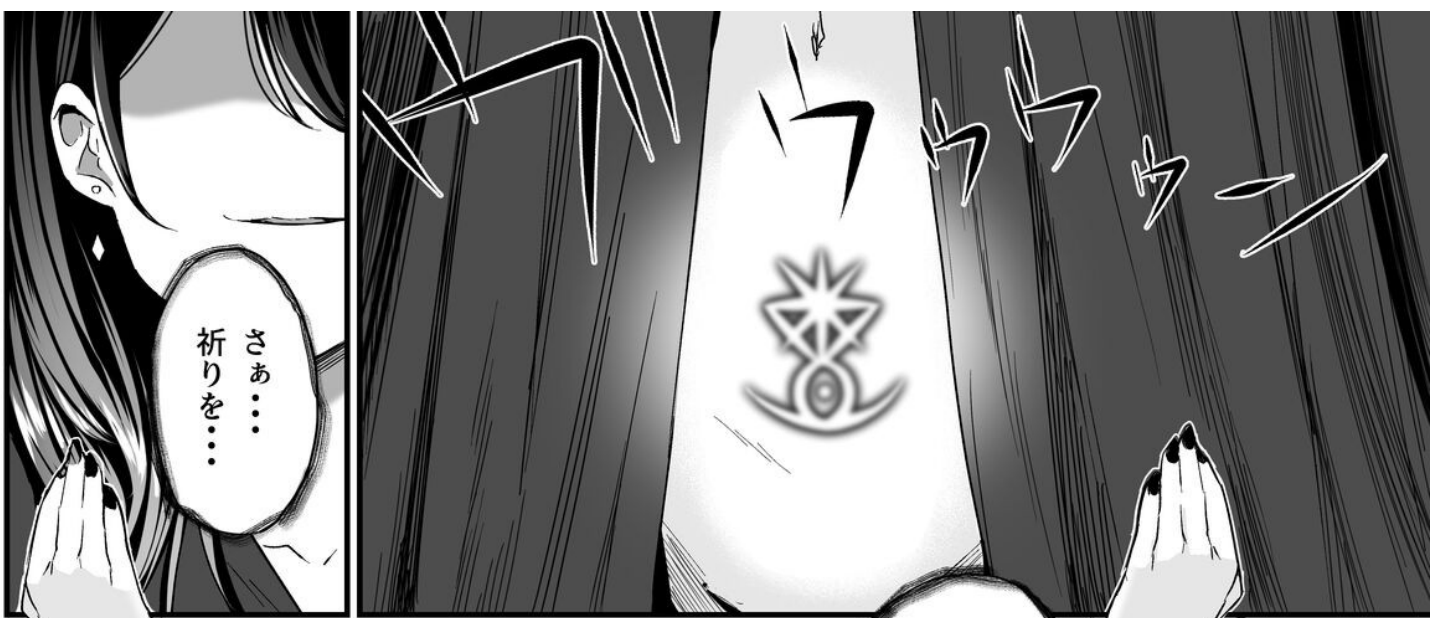
よほど酷い人生を  
歩んできたのでしょう

せめて次の生まれは  
より良いものとなるよう  
願いましう

これまでの男性は  
見るに堪えない醜い者  
ばかりでしたが

あれほど最後まで幸せそうな  
男性は初めてでした





さあ...  
祈りを...

新たな生命に祝福を

祝福を

